

### 3 分析・考察

#### ① 保護者アンケート結果より

- ・「保護者に関すること」等の項目は評価が高かったが、日々の子どもの様子や子どもへの指導や対応方法等、保護者にはその都度丁寧に細かく伝えるようにしていく。
- ・子ども同士のトラブルが起こった際には、互いの話にしっかり寄り添い耳を傾け、受け止め改善策を子どもと一緒に見出していくように関わっていく。
- ・園内外の環境整備を定期的に行い、保護者や園児が気持ちよく過ごせるように環境を整えていく。
- ・「保育教諭について」全職員共通理解を図りながら、保育をすすめる必要がある。

#### ② 自己評価から

- ・、「教育課程・指導・環境構成」に関しては、もう少し努力を要するの項目が多かった。日々の保育の振り返りを行い、期・年間・月・週の計画を見直し、幼児の発達理解を深め、主体性を育むような環境作りを今後もより考えていく必要がある。
- ・「保護者等との連携」では、全職員の共通理解が十分にできていなかったため、効果的な連携の在り方を工夫する。

#### ③ 生活リズム・生活習慣

- ・望ましい生活リズムについては、「かみはらっこ げんきキッズカード」を通して、成果がみられるものの、就寝時間については依然、遅い傾向にあり課題となっている。
- ・決まった子が持ち物忘れが多い。親子で持ち物確認の習慣が必要な発達年齢であるため、就学前に身につけ、次年度も重点に取り組み、園児・保護者への啓発を図っていく。

#### ④ 学校関係者評価

評議員、学校関係者意見

- ・家庭の教育低下(経済的・子育て支援等)に係る児童の対応が小学校もこども園も今年度大変だった為、保護者支援に力を入れていく必要がある。
- ・早寝・早起き・朝ごはんが定着せず、基本的な生活習慣(着脱・衣服の前後左右がわからない、家庭での読み聞かせ等)親の子育てに関心が薄い為、園での配慮を重視していく。

## 4 改善方針・改善策

### ①基本的な生活習慣の定着

- ・「早寝・早起き・朝ごはん・8時15分登園」の生活リズムが定着できるように、家庭との連携を図る。
- ・忘れ物ゼロを習慣づけられるように持ち物チェック表の配付を行い家庭に周知し、親子で意識向上を図る。
- ・特別支援を要する幼児に対しては、個別記録、巡回相談での指導を保育に生かし全職員で支援の共通理解を図りながら個別の支援の工夫を図る。
- ・家庭支援の必要な幼児は、保育園、小学校、行政機関との情報交換を図り支援の工夫に努める。

### ②規範意識の育成

- ・一人ひとりを大切にしたい対応を行い、丁寧な言葉遣い、名前にさんづけの定着で温かな人間関係を築く。
- ・集団生活でのルールやマナーがある事を知らせ、相手の思いを受け入れつつ、自分の思いも安心して伝えられるような機会を持てるようにする。

### ③話を聞き、話す意欲や態度の育成

- ・朝の会、帰りの会、全体集会、読み聞かせ等、様々な場面で話しを最後まで聞く態度を育てる。
- ・心を揺さぶり、話したくなる聞きたくなるような保育の充実を図る。

### ④家庭との連携の強化

- ・ホームページや園だより、クラスだよりを通して園の教育・保育についての発信や理解を図る。
- ・保育参観や保育参加の内容を精査し、保護者と連携した子育て支援へつなげる。